2026年秋年末闘争・組織拡大
CTG 建交労道本部闘争速報
2026年10月26日／第4号
〒060-0909 札幌市東区北9条東1丁目北海道労働センター2F
TEL011-711-7377
FAX011-711-7388
e-mail／ctg.hokkaido@gmail.com

なくせじん肺・アスベスト被害 北海道キャラバン

北海道労働局に要請 10労基署と5市にも

「なくせじん肺・アスベスト被害」北海道キャラバン行動で、10月20日に北海道労働局への要請をおこないました。要請には弁護士やアスベスト訴訟原告と建交労から９人が参加し、局側は監督課・健康課・労災補償課などが対応しました。要請では、「私たちの提言」や「トンネルじん肺救済法」「アスベスト給付金」などについて本省に意見上申するとともに、いくつかの項目について北海道局としてのとりくみを明らかにするよう求めました。北海道内の粉じん作業をおこなっている事業所数は1,808事業所で令和７年度に監督指導を行ったのは136件だとの回答があり、令和７年のじん肺管理区分決定は申請が82件で決定数は繰越を含めて82件だと明らかにしました。石綿による疾病の労災給付は令和７年度に128件の請求があり支給決定されたのは94件です。局で１台保有しているアスベストアナライザーの貸し出しは令和７年度に３件でした。「じん肺診査ハンドブック」は２月に説明会があったものの、まだ確定したものは知らされておらず、運用通達も出ていないとのことです。

なお、10月14日から20日にかけて、10労働基準監督署（釧路・小樽・札幌中央・札幌東・室蘭・函館・苫小牧・帯広・旭川・滝川）と５市（小樽市・室蘭市・函館市・苫小牧市・旭川市）への要請行動をおこないました。札幌市への要請は11月９日に予定しています。

釧路地域支部が「トラックの日」行動

釧路地域支部トラック部会は10月９日の「トラックの日」に、釧路市大楽毛の「セブンイレブン」トラック駐車場で宣伝・対話行動をおこないました。この日は、職場の労働者２人をふくめて８人がトラック部会のアンケートと返信用封筒や建交労のティッシュペーパーを30人のドライバーに手渡しました。今回の行動の特徴は、手渡す人数が例年より多く、その際にアンケートの趣旨を説明できた人も多かったことで、参加者は手ごたえを感じました。また、太平洋運輸の職場内でも20セットを机上配布しました。

第27回道本部大会の発言から

【北空知支部・小松代議員】労働組合の選挙闘争のあり方をもう一度問い直し、私たちの力で政治を変えていくことが大事だ。「対話と学びあいを労働組合の文化にする」ことも強調したい。**【旭川支部・春田代議員】**全国青年部の反核キャンペーンやＮＰＴ国際行動・平和学習会に参加して戦争や核兵器・平和について考えるきっかけになった。北海道の青年部としてもいろんなことを学んでいきたい。**【札幌学童保育支部・宇夫代議員】**函館の学童保育分会と活動交流をした。共同して宣伝・対話できるよう工夫したい。道庁との交渉で全道の実態を伝えることができたが、学童保育の位置づけは低いと思った。札幌市内の児童会館職員の雇用延長を要求している。様々な災害があっても安心して安全に学童保育でいられるよう頑張っていきたい。**【函館支部・伊藤代議員】**３月に函館で民医連振動病交流集会があり参加した。各地域の先生から歴史や課題について報告され、とても参考になった。道南勤医協では、組合からの要請も受けてこれまでどおり診断書を作成することになりうれしい。地元の労災職業病に悩んでいる労働者の救済のために引き続き頑張りたい。**【釧路地域支部・小沼代議員】**26年間の道東地方協議会の活動を閉じることにしたが、トラック部会の活動は継続する。今年も「トラックの日」行動にとりくむ。**【十勝建設支部・福井代議員】**数年ぶりに十勝で「健康相談会」をやった。今年はアスベストの相談もあり、地域に建交労があることを示せたと思う。**【鉄道本部・最上代議員】**ＪＲの若手社員と対話し、労働者の違いを越えた信頼関係が生まれている。これまで以上に対話と交流を重視して組織拡大につなげていきたい。